

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成25年3月21日現在

今月の重点活動

■いちご 「ぎふいちご」を若手がPR強化！

・JAぎふ、ぎふ岐阜市いちご部会、長良園が、共同開発した菓子を全国展開するため、農業普及課が支援を行いFOODEX JAPAN 2013（3月5日から8日まで）に出展した。

この展示会は、国内最大で4日間で7万人ほどの来場者があり、とても活気があった。ぎふいちごのブースには、いちごのお菓子だけでなく、ぎふいちご「濃姫」「美濃娘」にも興味を持っていただき、新たな販路づくりに役立てることが出来た。今後は、生産者とJA、農業普及会が連携し、新販路や新商品の開発を行う。



【FOODEXJAPAN 出展風景】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス 第5回アスパラ塾を開催！

3月11日、JAぎふ正木店において塾生8名が集まって、「第5回アスパラ塾」を開催しました。JAぎふ及び普及課の指導・支援を受けて、基本的なアスパラガスハウス栽培および肥料施肥、農薬適正使用等農業生産等について学んだ。

今回は、最終回となり第5回「立茎から摘心・整枝、農薬安全使用と病害虫防除法」について講義を行った。

アスパラガスハウス塾も最終回を迎え、いよいよ実践に入ることから、塾生も熱心に聞き入っていた。

また、春芽収穫中の現地ハウスを見学して、収穫の方法を学んでいただきました。最後に1年間を通したアンケート調査を行い、塾生のほとんどが「アスパラガス栽培を行う」との回答が得られ、一定の成果があった。



【アスパラ塾の様子】

売れる農畜産物づくり

■かき 間伐推進中！

管内の各かき産地では、間伐検査、研修会を開催し、農業普及課から間伐についての目的、方法、効果等について説明し、啓蒙推進した。

Ⓢ 柿振興会の間伐検査結果は、90%が合格となったが、岐阜市かき共販振興会は、まだまだ末端の会員には間伐の認識が低く、間伐達成率も50%まで届かない状況となった。

瑞穂市柿振興会では今回からチェックシート方式による間伐検査を実施し、検査基準が明確となり78%の合格となった。



【Ⓢ 柿振興会全体研修会の様子】

■小麦 小麦追肥指導

管内の小麦は草丈、莖数ともに平年よりやや下回っているが、3月中旬から気温が高くなり草丈は平年並みに近づいている。現在幼穂形成期であり、農業普及課では追肥を実施するよう指導した。

また、縞萎縮病と思われる葉の黄化症状は昨年と比べると目立っていないが、黄化がみられるところは追肥の窒素量を1kg/10a増やすよう指導した。

■加工きゃべつ 各務原市地域

各務原市地域では加工用業務用野菜として加工きゃべつの栽培に取り組んでいる。

2月上旬に収穫予定していたきゃべつは、寒さのため生育が遅れ、3月4日から収穫開始となった。

5 t / 10 a の収量目標であったが、定植後の豪雨、天候不順で追肥が出来ないなど課題が多い結果となった。

次年度に向け、農業普及課では、課題を整理し、加工きゃべつを水田転作として定着できるように支援していく。



【加工きゃべつ収穫風景】

■ブロッコリー 秋冬ブロッコリー出荷ほぼ終了

J A ぎふブロッコリー連絡協議会では、H24 年度産分の出荷を完了した。

3月上旬現在で栽培面積 15ha(前年対比 119.7%)、出荷数量 15,796c(94.8%)と、面積拡大したものの出荷量が伴わない結果となった。低温や降雪の影響で生育遅延となったものが、ほ場でそのままロスとなったため。J A 担当者と定植日や施肥体系の見直し、品種の検証などH25年度に向けて情報交換中。

■えだまめ 若手生産者の意見交換会開催！

(内容)

JAぎふえだまめ部会若手生産者を対象に、意見交換会を開催(3/1)し、生産出荷に関する意見や出荷量増加に向けた課題等について活発な討議を行った。就農年数、就農までの経歴、地域も様々な生産者間で話し合いを行ったことで、多様な意見が聞かれ次世代に向けた課題も浮き彫りになった。

2月上旬より播種を開始したハウスえだまめの生育は順調に進んでいる。2月下旬からはトンネル栽培も始まり、育苗管理に細心の注意を払っている。

多様な担い手の育成・確保

■指導農業士 岐阜地域指導農業士連絡協議会総会開催

3/15に岐阜地域指導農業士連絡協議会総会を開催した。総会では、退任者(高田正義氏)と新規入会者(林克二氏)が紹介された。

総会終了後、「日本の歳時と植物との関わり」と題して、講演があり、歳時は農耕民族である日本人が健康や豊作を願い、暮らしを豊かにするための知恵であるとの内容で、パートナーからも好評であった。



【参加者一同】